



vRealize Operations Manager 7.5 リリース ノート

VMware vRealize Operations Manager Appliance 7.5 | 2019 年 4 月 11 日 | ビルド 13165949

VMware vRealize Operations Manager 7.5 PAK Updates | 2019 年 4 月 11 日 | ビルド 13165947

VMware vRealize Operations Manager 7.5 Endpoint Operations Agents | 2019 年 4 月 11 日 | ビルド 13055136

VMware vRealize Operations Manager 7.5 Endpoint Operations Agents PAK Updates | 2019 年 4 月 11 日 | ビルド 13056189

VMware vRealize Operations Manager 7.5 Pre-Upgrade Assessment Tool | 2019 年 4 月 11 日 | ビルド 13176775

VMware vRealize Application Remote Collector 7.5 | 2019 年 4 月 11 日 | ビルド 13122748

本リリース ノートに対する追加情報およびアップデート情報を適宜確認してください。

リリース ノートの概要

このリリース ノートには、次のトピックが含まれています。

- [新機能](#)
- [システム要件](#)
- [vRealize Operations Manager のインストールとアップデート](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

新機能

New セキュリティ アドバイザリへの対応パッチ

vRealize Operations Manager 7.5 で導入された vRealize Application Remote Collector は Salt を使用するため、認証バイパスおよびディレクトリ トラバーサル脆弱性の影響を受けます。共通脆弱性識別子プロジェクト (cve.mitre.org) では、これらの問題に対して、[CVE-2020-11651](#) (認証バイパス) と [CVE-2020-11652](#) (ディレクトリ トラバーサル) の識別番号が割り当てられています。詳細については、[VMSA-2020-0009](#) を参照してください。この問題を解決するには、[KB 79031](#) に記載されている公開パッチをインストールしてください。

製品の機能拡張

vRealize Operations Manager 7.5 リリースでは、強化された新たな統合により、使いやすさを向上させ、価値の提供を迅速化し、お使いの環境への拡張性を高めることに重点が置かれています。パフォーマンス、キャパシティ、構成、コンプライアンスの既存の柱に加え、マルチクラウド環境の管理に有効なアプリケーションの監視およびトラブルシューティングに関する新機能も導入され、従来のアプリケーションと最新のアプリケーションの両方をホストします。

アプリケーション操作

- 既製のアプリケーションを監視およびトラブルシューティングするための簡素化されたワークフロー。

- アプリケーションと OS 監視のための新しい Telegraf エージェント。
- Telegraf エージェントのライフサイクル管理。

パフォーマンスの継続的な最適化

- vSAN データストアをサポートする vSAN クラスタでワークロード最適化を実行する機能（エイリアスを使用したデータストアは将来のリリースでサポート）。
- ワークロード最適化で、クラスタベースの配置とホストベースの配置の両方のビジネスインテント タグの違反を表示する機能。
- ホストベース インテントで作成されたホスト グループの CPU およびメモリ ワークロードを評価して、効率的に配置を決定する機能。

効率的なキャパシティとコスト管理

- キャパシティ 監視の機能拡張
 - 割り当てに対応するキャパシティ分析による新しいキャパシティ管理ユースケース。
 - 残りの仮想マシンを追跡するための拡張されたカスタム仮想マシン プロファイル。
 - キャパシティ管理を簡単にするための、割り当てベース分析、残りのキャパシティ、残りの仮想マシンを視覚化する新しいキャパシティ ワークフロー。
- キャパシティ 最適化の機能拡張
 - 新しいキャパシティ解放のワークフローで、実体のない VMDK を特定して解放し、節約可能なキャパシティをレポートします（vCenter Server 6.5 以降でサポート）。
- キャパシティ プランニングの機能拡張
 - 効率的なキャパシティ プランニングのための、新規および拡張された What-if シナリオ。
 - ワークロード計画、物理インフラストラクチャ計画、ハイパーコンバージド インフラストラクチャ計画、および移行計画の各シナリオによって拡張されたキャパシティ プランニングのトップ ページ。
 - 仮想マシンまたはハードウェアの廃止、ハードウェアの更新、ハードウェアのアップグレードなどのシナリオをサポートする、仮想マシン削除およびホスト削除オプション。
 - vSAN クラスタに新しい vSAN 対応ノードを追加するシナリオを実行する機能。
 - 移行計画での Microsoft Azure、Google Cloud、および IBM Cloud のサポート。
 - カスタム レート カードを使用してサードパーティのクラウド プロバイダを追加し、移行計画のシナリオを実行する機能。
 - マルチクラウド比較のための、移行計画ワークフローの機能拡張。
 - キャパシティへの影響を視覚化して効率的に計画するための、複数の保存シナリオを統合してスタックする機能。
- コスト管理の強化
 - クラスタの基準レートと仮想マシンのコストを計算するための、割り当てに対応するコスト モデル。
 - パワーオフ状態の仮想マシン、アイドル状態の仮想マシン、スナップショットなどの無駄なリソースを再利用するための、割り当てに対応するコスト。
 - ストレージ コストを含む vSAN 対応ノード (HCI) の新しいコスト モデル。
 - 既存のバッチ内で個々のサーバのコストを指定する機能を使用して、詳細なコスト管理を実施。
 - ライセンス、設備、メンテナンス、人件費、およびネットワークの、ELA ベースまたは一括合計のコストを追加する機能。

簡素化されたトラブルシューティング

- [すべてのメトリック] タブとダッシュボードでアプリケーションからインフラストラクチャへの完全な視野を実現する、オブジェクト関係トポロジの強化。
- [すべてのメトリック] タブで該当メトリックの正と負の相関関係を確認するための、メトリックの相関を利用した根本原因分析の迅速化。
- [すべてのメトリック] タブの新しいスーパー メトリック プレビュー機能を使用して、スーパー メトリック

クをプレビューする機能。

- 最近のアラートを 1 時間および 4 時間のタイムフレームでグループ化するオプションにより、アラートワークフローを簡素化。
- vCenter Server および VASA プロバイダのプロアクティブ HA に関連する問題を監視およびトラブルシューティングするための新しいアラート。
- 送信アラート設定での、設定不要な Service Now プラグインを使用した Service Now との統合。
- 迅速かつ簡単なトラブルシューティングが可能になる、重要な vSAN オブジェクトの新しいサマリ ページ。

SDDC の構成およびコンプライアンス

- 事前定義またはカスタマイズされたコンプライアンス アラートに基づいて、カスタム コンプライアンス テンプレートを定義、編集、削除する機能。
- vSphere セキュリティ構成ガイド 6.7 Update 1 をサポートするために内容を更新。

プラットフォームの機能拡張

- 簡素化されたワークフローでスーパー メトリックの作成、プレビュー、有効化を行える、新しいウィザード ベースのスーパー メトリック エディタ。複雑なスーパー メトリックを簡単に作成できるオートコンプリート ヒント機能も搭載。
- インベントリでスマート フィルタリングを使用する任意のオブジェクトのカスタム プロパティを作成する、またはカスタム グループ メンバーシップを使用して自動割り当てを行う機能。
- レポート作成およびフィルタリングにカスタム プロパティを使用する機能。
- ワンクリックでネイティブ ソリューションを有効および無効にする新しいソリューション リポジトリ ページ。新しいマーケットプレイス ソリューションを追加することもできます。
- 監査ログを使用した作成、変更、削除などのユーザー アクティビティを追跡する、監査機能の拡張。
- 通知と推奨事項によって検索する新しい検索オプション。
- お気に入りのビューをピン留めして実行する、すべての新しいビュー ナビゲーション。
- ユーザー エクスペリエンスを向上させるグローバル設定のインライン編集。
- 「Summary!Guest Operating System!Tools Version」 プロパティを更新することで、数値のビルド番号 (10249) ではなく、シーケンスベースの識別子形式 (10.3.5) で VMware Tools バージョンをサポート。
- グローバル設定の新しいオプション：
 - 生成されたレポートの保持期間を設定する機能 (月単位) 。
 - 初回アクセス時に読み取り専用ユーザーとして自動的に作成される、インポートされていない VMware Identity Manager (vIDM) ユーザーを有効または無効にします。
 - ささまざまなオブジェクト タイプに対してカスタムの保持期間を設定する機能。
 - 同時接続ユーザーのログイン セッションを無効にする機能。
 - 実体なしディスクの収集期間を指定する機能。
- REST API の機能拡張
 - このリリースでは、カスタム グループ用の新しいパブリック API が実装されています。カスタム グループ関連の内部 API は廃止されており、次のリリースで削除されます。
 - 管理者パスワードを変更する機能。
 - 監査レポートを XML および JSON 形式にする機能。
 - 古い証明書を削除する機能。
 - 大きな API 応答を圧縮する機能。

レポートおよびビューの機能拡張

- レポート スケジュールの機能拡張：
 - カスタム時間オプションを使用して、レポート配信をスケジュールリングする機能。
 - レポート配信を毎日スケジュールリングする機能。
 - E メールによるレポート配信に、コピー (CC) およびブラインド コピー (BCC) を追加する機能。
- 表セルの色指定機能が、PDF 形式のレポートに拡張されました。
- すぐに使用できるカスタム PDF レポートのすべてに、カスタマイズした同じ表紙を付けることができる新オプション。

- ビューが拡張され、相対および絶対タイムスタンプにより、時間の経過に伴うメトリックとプロパティの変化の追跡が可能に。
- 親オブジェクトまたは子孫オブジェクトに基づいてリスト ビューをグループ化する機能。サブグループレベルのサマリも、ビューおよびレポートで使用可能。

ダッシュボードとウィジェットの機能拡張

- ウィジェットの機能を簡単に理解できるように、ウィジェットとビューの構成に整合性を持たせたウィザードベースのワークフロー。
- 表示情報を一層細かく制御できるようになったウィジェットの出力フィルタ機能。
- 単純な親子関係に留まらず、関係の階層の深さを指定できる機能。
- アプリケーションからインフラストラクチャまで、完全なスタック可視性を提供する新しい関係ウィジェット。
 - イベント、ログ、アノマリ、メトリックしきい値違反に基づく、アクティブ アラートのオーバーレイ。
 - スタック全体の健全性の問題の上流および下流の影響を迅速に把握できるため、根本原因を根絶。
- メトリックとプロパティに基づくスマート フィルタを使用して、ダッシュボード ウィジェット内のオブジェクトをフィルタする機能。
- 新規のダッシュボードを作成するか、既存のダッシュボードを編集しながら、1 つ以上の既存のウィジェットを構成とともにコピーする機能。
- ダッシュボード レベルの時刻で全ウィジェットの事前構成済み時間を設定できるシングルクリック オプション。

コンテンツ拡張

- 監視およびトラブルシューティングのための特別な設定が不要な新しいダッシュボード：
 - アプリケーション
 - vSphere コンピューティング スタック
 - vSphere ストレージ スタック
 - vSphere ネットワーク スタック
 - ストレッチ vSAN クラスタ
- 特別な設定が不要な新しいレポート：
 - vSphere クラスタの割り当て
- 特別な設定が不要な新しい監視アラート：
 - VASA プロバイダ (vSphere API for Storage Awareness)
 - vSphere Proactive HA
 - vSAN 暗号化ステータス

Apache バージョン

このリリースでは、Apache のバージョンがバージョン 2.2.34 にアップグレードされています。

RHEL サポート

このリリースの vRealize Operations Manager は RHEL アップグレードをサポートしていません。

Microsoft Internet Explorer

vRealize Operations Manager 7.5 での Internet Explorer のサポートは制限されています。また、Internet Explorer は vRealize Operations Manager の次のメジャー リリースではサポートされません。サポートされる別のブラウザに切り替えることをお勧めします。詳細については、[KB 67539](#) を参照してください。

メトリックおよびプロパティの機能拡張

vRealize Operations Manager 7.5 で追加されたすべてのメトリックおよびプロパティについては、次のナレッジベースの記事に説明があります。

新しい Management Pack および Compliance Pack :

- vRealize Operations Manager 7.5 用の新しい VMware Management Pack および VMware Compliance Pack は、次のとおりです。
 - vRealize Operations Management Pack for NSX-T 2.0
 - vRealize Operations Management Pack for vRealize Orchestrator 3.0
 - vRealize Operations Management Pack for Cloud Provider Pod 2.0
 - vRealize Operations Management Pack for AWS 3.1
 - vRealize Operations Management Pack for VMware Identity Manager 1.0
 - VMware SDDC Health Monitoring Solution 6.0
 - vRealize Operations Compliance Pack for PCI 1.0.2

vRealize Operations Manager 7.5 でサポートされているすべての VMware Management Pack については、[VMware 製品の相互運用性マトリックス](#)を参照してください。

7.5 でサポートされているサードパーティ製 Management Pack については、[VMware 互換性ガイド](#)を参照してください。

システム要件

vRealize Operations Manager のインストールやアップデートを実行する前に、このセクションをお読みください。

サイジングおよびスケーリング

環境の需要を満たす CPU、メモリ、ディスク要件は、お使いの環境および収集されたデータ内のオブジェクト数とタイプによって異なります。たとえば、搭載されているアダプタの数とタイプ、高可用性 (HA) の適用、データの保持期間、任意の時点でのデータ量などで左右されます。[ナレッジベースの記事 KB 2093783](#) のサイジングとスケーリングに関する情報が最新の内容に更新されています。このナレッジベースの記事には、全体的な上限、ならびにオブジェクトの数および監視対象とするメトリックに基づいて推奨値を提示するスプレッドシート計算が含まれます。

注：今回のリリースでは、アップグレード時間が 10 分間短縮され、クラスタ全体で CPU 使用率が約 15% 向上しています。これは、パフォーマンスの向上に加えた改善事項です。

デプロイ形式

vRealize Operations Manager 7.5 は、VMware 仮想アプライアンスと一緒に導入できます。

vRealize Operations Manager 仮想アプライアンスを展開する場合は、VMware vSphere Client を使って VMware vCenter Server に接続し、vCenter Server インスタンス経由で仮想アプライアンスを展開します。vRealize Operations Manager 仮想アプライアンスは、VMware vCenter Server 6.0 以降で管理されている ESX/ESXi 6.0 以降のホストに展開する必要があります。vRealize Operations Manager 仮想アプライアンスを ESXi 5.5 ホストに展開している場合、まず vCenter Server を新しいバージョンにアップグレードしてから、vRealize Operations Manager 7.5 にアップグレードする必要があります。

ライセンス キーの適用

重要： vRealize Operations Manager 7.0 以降のバージョンには、新しいライセンス キーが必要です。vSOM Enterprise Plus とそのアドオンを除くすべてのライセンス キーが無効化されます。MyVMware ポータルから取得できる有効な新規のライセンス キーがインストールされるまで、この製品は評価モードで動作します。vRealize Operations Manager のユーザー インターフェイスにログイン後に評価版ライセンスを使用中であることを示すメッセージが表示される場合、60 日間の評価期間が終了する前に、新しいライセンスを申請することをご検討ください。

オペレーティング システム インスタンス (OSI) 単位のライセンスに加えて、プロセッサ (CPU) 単位の vRealize Operations Standard エディションもあります。vRealize Operations の他のエディションのライセンスは、変更はなく、引き続き OSI 単位で販売されます。

ユーザーは、複数の Advanced および Enterprise エディションを単一の vRealize Operations Manager デプロイにインストールできます。また、単一ライセンスとスイート ライセンスを一緒にインストールできます。個別のライセンス キーのライセンス カウントはライセンス グループによって処理されます。異なるエディションまたはライセンス モデルは、次のいずれかの方法で併用することができます。

注： 同一環境で vRealize Operations Standard エディション ライセンスを Advanced または Enterprise ライセンスと一緒にデプロイすることはできません。

vRealize Operations Manager インスタンスに割り当てられているライセンス キーは、パワーオン状態の仮想マシンのみをカウントします。ライセンス モデルを遵守するには、過去 365 日間のパワーオン仮想マシン平均数をカバーする十分なライセンスが必要です。

vRealize Operations Standard エディションでは、ビュー、ダッシュボード、スーパー メトリック、レポート、および自動アクションを作成または編集する機能は使用できません。アプリケーション メトリックを Wavefront に送信する機能は使用できません。vRealize Operations Standard エディションでは、ビジネス インテントベースの自動化されたスケジューリング可能なワークロード バランシングの機能も使用できません。この機能は、以前のエディションの vRealize Operations では EULA によって適用されていました。vRealize Operations 7.0 以降、この機能は EULA だけでなく、ユーザー インターフェイスを介しても適用されます。使用できる機能の詳細については、次のリンクのエディション比較表をご覧ください。 <https://www.vmware.com/products/vrealize-operations.html>

SDDC コンプライアンス

vSphere 6.7、6.5、6.0 オブジェクトのコンプライアンス確保のため、vRealize Operations Manager 7.5 には、[VMware vSphere セキュリティ強化ガイド バージョン 6.7 Update 1](#)、6.5、6.0 用のコンプライアンス アラートが用意されています。これらのセキュリティ強化ガイドのアラートは、対応するオブジェクト タイプに基づいています。現在のリリースでは最新の vSphere セキュリティ構成ガイド 6.7 Update 1 がサポートされていますが、アラートおよびシンプトムの中には、旧バージョンの vSphere との下位互換でしか利用できないものがあります。

ソリューションのサポート

VMware ソリューション (vSphere、Endpoint Operations Management、vRealize Log Insight) 、およびその他多数のソリューションについては、[Solution Exchange](#) マーケットプレイスを参照してください。これらのソリューションは、仮想アプライアンスの単一または複数のノードで動作します。

TLS サポート

vRealize Operations Manager インスタンスを 7.5 にアップグレードすると、すべての vRealize Operations Manager ノードで TLS 1.0 と TLS 1.1 の両方が無効になります。TLS 1.2 が、デフォルトでサポートされる唯一のプロトコルです。ただし、セキュリティ バーを下げ、TLS 1.0 および 1.1 を有効にすることも可能です。詳細については、KB [67108](#) を参照してください。

VMware 製品の互換性

注：VMware 製品の相互運用性マトリックスで、vRealize Operations Manager と VMware 製品との互換性について説明しています。

ブラウザのサポート

この vRealize Operations Manager リリースでは、現在のすべての Web ブラウザがサポートされています、ただし、このリリースでテストされているのは次のブラウザのみです。

- Google Chrome：バージョン 72 および 73
- Mozilla Firefox：バージョン 65 および 66
- Microsoft Edge 17
- Safari 11 および 12
- Internet Explorer 11（制限付きサポート）

vRealize Operations Manager のインストールとアップデート

vRealize Operations Manager 6.7 以降からアップグレードする場合を除き、Pre-Upgrade Assessment Tool を実行する必要があります。Pre-Upgrade Assessment レポートが生成されて、推奨される置き換えが示されます。このツールを使用すると、製品のさまざまなバージョンでのメトリックの削減に伴う影響分析を行うことができます。Pre-Upgrade Assessment Tool の使用方法の詳細については、[KB 67663](#) を参照してください。アップグレード前に Pre-Upgrade Assessment Tool を実行することを常にお勧めします。

vRealize Operations のアップグレードに関する情報を提供する [vRealize Operations アップグレード センター](#) を参照してください。vRealize Operations Manager のサポートされるバージョンの詳細については、[VMware ライフサイクル製品マトリックス](#) を参照してください。

アップグレード後は、Endpoint Operations エージェントの更新が必要です。詳細については、[KB 2137709](#) と [KB 2138748](#) を参照してください。

[vRealize Operations Manager インフォメーション センター](#) には、インストールおよびソフトウェア アップデートに関する詳細情報があります。

vRealize Operations Manager をインストールまたはアップデートする前に、vRealize Operations Manager 仮想アプライアンスのガイダンス『[vRealize Operations Manager vApp デプロイおよび構成ガイド](#)』を参照してください。

vRealize Operations Manager 7.5 にアップグレードすると、アップグレード中に[デフォルトの内容の再設定]チェックボックスをオフにしても、特別な設定が不要なコンテンツがソフトウェア アップグレード処理の一環としてリセットされます。これにより、アラート定義、シンプトム定義、推奨事項、ポリシー、ビュー、ダッシュボード、ウィジェット、レポートなどのデフォルトの内容に対してユーザーが行った変更が上書きされます。そのため、vRealize Operations Manager 7.5 にアップグレードする前に、コンテンツのクローンを作成するかバックアップを取る必要があります。

1 つの環境に vSphere with Operations Management（任意のエディション）および vRealize Operations Standard を同時にデプロイする。

1 つの環境に vCloud Suite/vRealize Suite Standard/Advanced/Enterprise と、vRealize Operations Advanced/Enterprise エディションを同時にデプロイする。

注：vRealize Operations Manager は vRealize Suite Lifecycle Manager を使用してインストールすることもできます。詳細については、「[Creating an Environment](#)」を参照してください。インストール、構成、アップグレード、パッチ、構成管理、ドリフト修正、および健全性を単一の管理画面で自動化するために、vRealize Suite Lifecycle Manager を使用できます。新規ユーザーの方は、ここをクリックして [vRealize Suite Lifecycle Manager](#) をインストールしてください。クラウド管理リソースの IT 管理者はこれを使用することで、価値の提供 (TTV)、信頼性、一貫性を向上させながら、ビジネス クリティカルなイニシアチブに集中することができます。

vRealize Operations Manager のインストールまたはソフトウェアのアップデートに関する問題については、「インストールとアップデートの問題」セクションを参照してください。

解決した問題

- クラスタ管理で、HA の有効化プロセスがまだ進行中のときに、HA が有効と表示されるオブジェクトの数によっては、データの同期にある程度の時間がかかります。

既知の問題

既知の問題は、以下のとおり分類されています。

- [インストールとアップグレードの問題](#)
- [全般的な問題](#)
- [ユーザー インターフェイスの問題](#)

インストールとアップグレードの問題

- ピュア IPv6 環境で、`/etc/resolv.conf` ファイルに DNS サーバがない
新しいノードがピュア IPv6 環境にデプロイされると、`/etc/resolv.conf` ファイルに DNS サーバがありません。その結果、ノードが FQDN を IP アドレスに解決できません。

回避策：ネットワーク管理者のサポートを受けながら、`/etc/resolv.conf` ファイルで DNS サーバを手動で設定してください。

- IPv6 アドレスの最後のコロンの後に数字のみが含まれていると、クラスタへのノードの参加に失敗する
IPv6 環境では、vRealize Operations Manager クラスタにノードを参加させようとしているときに、構成がメッセージとともに停止し、1 時間後にノードのインストール失敗メッセージとともにタイムアウトになります。

回避策：ノードを再デプロイします。

- [Pre-Update System Validation] ダイアログ ボックスにテキストが表示されない
チェックが成功したかどうかに関係なく、管理者および root アカウントのノードでのロック ステータスの検証中、[Pre-Update System Validation] ダイアログ ボックスにテキストが表示されることはありません。ダイアログ ボックスの上部に一般的なエラー メッセージが表示され、エラー キーが管理者ユーザーインターフェイスの [Software Update] ページに表示されます。

回避策：なし

- 仮想マシンでいずれかのノードが US/Pacific-New タイムゾーンで実行されている場合、アップグレードが失敗することがある
PostgreSQL データベース システムは、US/Pacific-New タイムゾーンをサポートしなくなりました。このタイムゾーンは、America/Los_Angeles タイムゾーンのエイリアスにすぎません。このため、仮想マシン上でいずれかの vRealize Operations Manager ノードが US/Pacific-New タイムゾーンで実行されている場合、アップグレードが失敗することがあります。

回避策：仮想マシンのタイムゾーンを US/Pacific-New から America/Los_Angeles に変更してから、アップグレードしてください。

- 現行リリースの vRealize Operations Manager へのアップグレード後、一部のオブジェクト アラートが有効にならない

vSphere セキュリティ強化ガイド アラートが有効になっていた以前のバージョンから 7.5 へとアップグレードすると、分散ポート グループ、分散仮想スイッチ、あるいは vCenter Server オブジェクトに関連するアラートを確認できなくなります。これらのアラートは、アップグレード時にデフォルトで無効になるためです。

回避策：次のいずれかを選択します。

- アダプタの構成からセキュリティ強化ガイド アラートを有効にする。
- ポリシー ライブラリでアクティブなポリシーを編集して、これら 3 つのオブジェクト アラートを有効にする。

全般的な問題

- vRealize Operations Manager で分析ノードが異なるとコンプライアンス スコアが異なる
7 つすべてのコンプライアンス ポリシーで、異なる分析ノードのユーザー インターフェイスには、異なるコンプライアンスのスコアが表示されます。詳細については、[KB 70665](#) を参照してください。

回避策：なし

- Active Directory 認証ソースによるユーザー名の処理方法の変更
短縮名を使用した vRealize Operations Manager へのログインは、ユーザー名のドメイン サフィックスが [ベース DN] オプションで指定されたドメイン名と一致する場合にのみ成功します。そうでない場合は、ログイン時にドメイン サフィックスを含む完全なユーザー名を指定する必要があります。詳細については、[KB 68131](#) を参照してください。

回避策：短縮名を使用して認証を行うには、Active Directory 認証ソースで、共通名に *samAccountName* を使用するよう設定します。共通名を *samAccountName* に設定したら、Active Directory ユーザーおよびグループを再インポートする必要があります。

- 使用率モデルに基づく What-If 分析
What-If 分析は、割り当てモデルを有効にしている場合でも、キャパシティとコスト両方の計算の使用率モデルに基づいています。

回避策：なし

- データの収集開始後も、存在しない状態のサービスの状態が変わらない
存在しない状態のサービスの設定を編集しても、データの収集開始後もサービスは存在しない状態のままです。

回避策：アプリケーションのアダプタ インスタンスを再起動してください。

- [環境のステータス] ウィジェットで、詳細なフィルタリング条件が無視される
タグ フィルタでオプションが選択されていても、[環境のステータス] ウィジェットで詳細なフィルタリング条件が無視されます。

回避策：なし

- [ワークロード最適化] ページで一貫性のないタグ違反が発生する
クラスタに複数のタグが割り当てられ、クラスタベースのインテントが有効になっている場合、[ワークロード最適化] ページで一貫性のないタグ違反が発生します。

回避策：なし

- vRealize Operation Manager が Log Insight と統合されていないことを示すメッセージが [ログ] タブに表示される
VMware vRealize Log Insight Management Pack が、[管理] > [ソリューション] > [リポジトリ] ページで有効にされていないと、[ログ] タブにメッセージが表示されます。

回避策：[管理] > [ソリューション] > [リポジトリ] ページで、VMware vRealize Log Insight Management Pack を有効にしてください。

- アプリケーションの監視中にエージェントを起動すると、アプリケーション サービスが停止状態になる

vRealize Operations Manager 7.0 で有効にしたアプリケーション サービスは、エージェントを停止して起動すると、停止状態になります。この問題は、vRealize Operations Manager を 7.5 にアップグレードし、vRealize Application Remote Collector を 7.5 にアップグレードした場合に発生します。

回避策：エージェントを停止して起動するたびに手動でアプリケーション サービスを開始するか、アプリケーション サービスを再アクティブ化すると、エージェントの開始/停止が正常に機能するようになります。

- VMware Application Proxy 1.1 から vRealize Application Remote Collector 7.5 にアップグレードした後にサービスが検出されない

VMware Application Proxy 1.1 から vRealize Application Remote Collector 7.5 にアップグレードした後に、アプリケーション サービスが実行されている場合でも vRealize Application Remote Collector はそのサービスを検出しません。

回避策：VMware Application Proxy 1.1 から vRealize Application Remote Collector 7.5 にアップグレードした後に、vRealize Application Management Pack アダプタを再起動します。

- Windows Server 2012 でのエージェントのインストールに失敗する

バージョン 14 よりも古いバージョンの Visual C++ を使用している場合、Windows Server 2012 でエージェントをインストールできません。

回避策：次の手順を実行して、Windows Server 2012 マシンを更新します。

1. Windows Server 2012 マシンで Update Manager が有効になっていることを確認します。
2. アップデートを確認します。アップデートの確認に失敗した場合は、次の手順を実行してください：<https://support.microsoft.com/en-us/help/947821/fix-windows-update-errors-by-using-the-dism-or-system-update-readiness>。
3. Update Manager を再度実行し、パッチをインストールします。
4. Windows Server 2012 マシンを再起動し、アップデートを再度確認します。追加のアップデートをインストールします。
5. 2014 年 4 月の Windows Server 2012 R2 用更新プログラム ロールアップ (2919355) までのパッチを Windows Server 2012 マシンに適用する必要があります。
6. <https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=49063> からファイルをダウンロードします。
7. Windows Update を使用して msu を実行します。
8. Windows Server マシンを再起動します。

- Management Pack for SDDC Health、Management Pack for OpenStack、および Management Pack for SRM に関連するイメージやアイコンなどのオブジェクトが表示されない

vRealize Operations Manager をアップグレードした後で、vRealize Operations Manager クラスタを Management Pack for OpenStack 5.0、Management Pack for SRM 8.1、または Management Pack for SDDC Health 5.0 をインストールして、別の vRealize Operations ノードを追加すると、イメージやアイコンなど管理パックに関連する一部のオブジェクトが欠落します。

回避策：Management Pack for OpenStack、Management Pack for SRM、または Management Pack for SDDC Health のインスタンスを持つユーザーは、vRealize Operations Manager をアップグレードする前に、管理パックをアンインストールする必要があります。

- vRealize Orchestrator の Management Pack に関連するイメージやアイコンなどのオブジェクトが表示されない

vRealize Operations Manager をアップグレードした後で、vRealize Orchestrator 2.0 の Management Pack がインストールされた vRealize Operations Manager クラスタを拡張し、別の vRealize Operations ノードを追加すると、vRealize Orchestrator 2.0 の Management Pack に関連するイメージやアイコンなどのオブジェクトが欠落します。

回避策： vRealize Operations Manager をアップグレードする前に、Management Pack for vRealize Orchestrator をバージョン 3.0 にアップグレードします。

- **VVOL データストアがマスクされる**

VVOL データストアが構成された仮想マシン、ホスト、クラスタ、データセンター、または vCenter Server オブジェクトが選択されると、環境オブジェクトのマップまたはすべてのメトリックのトラブルシューティング ページに、誤ったデータストア カウントが表示されます。また、仮想マシンが VVOL データストアに展開されている場合、Raw メトリックまたは派生メトリックが欠落する場合があります。

回避策： なし。vRealize Operations Manager が VVOL データストア メトリックをまだ実装していないため、VVOL データストアはマスクされます。ただし、VVOL データストアは数に含まれています。

- **VMware Cloud on AWS 上の vCenter Server オブジェクトの特別な設定は不要なコンプライアンス**
VMware Cloud on AWS 上の vCenter Server オブジェクトの特別な設定が不要なコンプライアンスはサポートされていません。

回避策： カスタム定義のアラートを使用しない場合は、VMware Cloud on AWS 上の vCenter Server オブジェクトの [コンプライアンス] タブを無視します。

- **VMware Cloud vCenter Server エンドポイントのコストが、vRealize Operations Manager 7.5 で計算されない**

vRealize Operations Manager 7.5 では、VMware Cloud vCenter Server エンドポイントを追加して、クラウド タイプを **VMware Cloud on AWS** として指定した場合、VMware Cloud vCenter Server エンドポイントのコストは計算されません。ただし、クラウド タイプを **VMware Cloud on AWS** として指定せずに、VMware Cloud vCenter Server を追加すると、コストが計算されます。

回避策： vRealize Operations Manager 6.7 で、VMware Cloud vCenter Server のクラウド タイプを **VMware Cloud on AWS** として指定した場合、vRealize Operations Manager 7.5 にアップグレードした後、VMware Cloud vCenter Server のハードウェア グループのサーバ 1 台あたりのコストを手動でゼロに設定する必要があります。

- **分布タイプのビューで変換タイプが [現在] の場合にしか操作に反応しない**

分布タイプのビューを作成したとき、[現在] 以外の変換タイプを選択するとリスト ビューが表示されません。

回避策： リスト ビューを表示するには、選択したメトリック変換を [現在] に変更します。同じメトリックを、関連する変換（最大値など）を備えた追加列として追加すると、変換の結果をリスト ビューに表示できます。

- **vSAN 健全性チェック テストを vSAN 健全性サービスから削除しても、vSAN アダプタからそのテストに対応するアラートがキャンセルされない**

vRealize Operations Manager は、削除されたアラートを検出およびキャンセルできません。

回避策： vRealize Operations Manager のユーザー インターフェイスからアラートを手動でキャンセルします。

- **Internet Explorer 11 を使用して [Log Insight] タブのページやダッシュボードにアクセスするとデータがブロックされる**

Internet Explorer 11 を使用して [Log Insight] タブのページやダッシュボードにアクセスすると、データがブロックされてページが空の状態になります。

回避策：Firefox または Chrome ブラウザを使用してください。

- 空のレポートが生成されることがある

vCenter Server の認証情報で vRealize Operations Manager にログインしてレポートを生成すると、レポートは常に空の状態で作成されます。

回避策：なし

ユーザー インターフェイスの問題

- Windows 7 で Internet Explorer を使用している場合、ダッシュボード リンクを開くことができない共有 URL であるダッシュボードを開こうとしても、そのページは開きません。

回避策：Windows 7 で Internet Explorer を使用しないでください。他のブラウザを使用してリンクを開きます。

- [ロールへの権限の割り当て] ダイアログ ボックスのハードコード文字列

[ロールへの権限の割り当て] ダイアログ ボックスで、*PluginActivation_hadoop* がハードコードされています。

回避策：なし

- 日付ピッカーの [過去 1 年間] オプションが直観的な認識と異なる

日付ピッカーの [過去 1 年間] オプションは、前月の末日から過去に 1 年間さかのぼった時間範囲を意味します。現在の日付から 1 年間さかのぼった範囲や、前年 1 年間の意味ではありません。

回避策：なし

- [メトリックとプロパティの収集] というポリシー ワークスペースのステップでフィルタ メニューが正しく機能しない

状態、KPI、DT のドロップダウン メニューでオプションを選択解除すると、設定に関係なくすべての属性がフィルタで非表示になります。

回避策：保存して、再びポリシーを開きます。

- PDF レポート ファイルに、スクロールバーが付いているウィジェットの一部のデータが含まれないことがある

スクロールバーが付いているウィジェットがあるカスタム ダッシュボードを含んでいるレポートを生成する場合、ダウンロードされた PDF ファイルにウィジェットの一部のデータが含まれていないことがあります。

回避策：ダッシュボード内のすべてのウィジェットの高さを、すべてのデータが収まるように拡大します。